



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第96号

発行日
令和6年6月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|---|--------------------------|
| P-2: 定期総会・部会打合せ | P-16: 入浜池補足調査① |
| P-6: 入浜池定点観察②/入浜池維持管理作業② | P-19: 清掃登山(多々良～高安ヶ原～青海苔) |
| P-9: 宮島学園卒業記念植樹 | P-21: 投稿・要害山の藤の花 |
| P-12: 鷹ノ巣高砲台跡地清掃・整備作業 | P-21: 編集後記 |
| P-14: 自主観察会(1)小なきり海岸植物調査、
小なきり海岸清掃作業 | |

「 ルリビタキ 」



瑠璃色の背中と黄色の脇腹を持つ美しい姿の小鳥（体長約 14cm）です。春から夏にかけての繁殖期は四国や列島北部の山地で過ごし、例年 11 月頃から 4 月頃に広島県にもやってきました。野鳥図鑑上は「留鳥または漂鳥」ですが、広島県では「冬鳥」です。

宮島では私がよく行く、ウグイス歩道から奥紅葉谷、大元公園に至るコースでも毎年所々で可愛い姿をみせてくれます。目立つ上にあまり人に対してそれほど敏感ではない（私個人の感想）ので、比較的観察しやすい野鳥だと思います。みなさん、冬になったら是非探してみてください。

ただ、この冬は、残念ながらほとんど出会うことが出来ませんでした。今年だけの事であれば良いのですが。個体数の減少を少し心配しています。

（写真・文 穂井田 敏哉）

定期総会・部会打合せ



定期総会、満開の桜と記念撮影（写真：河野会員）

宮島まちづくり交流センター杉之浦にて、新入会会員を迎え定期総会を実施した

日 時：4月6日（土）9:30～12:15

場 所：宮島まちづくり交流センター杉之浦

出席者：麻生 岩崎 上杉(裕) 上杉(幸)

大西 大林 小川 折出 恩田 熊埜御堂

黒川 河野 佐藤 末原 種本 兎谷

豊原 中丸 長村 畑野 穂井田 増田

舛田 松田 三戸 村上(慎) 元広 森

山本(加) 山本(昌) 以上 30名

(委任状提出者 8名)

環境省：内山自然保護官 大高下 AR

1.開会（司会 岩崎副会長）

配布資料の確認のあと、新入会会員を含め出席会員全員が自己紹介を行った。

2.開会挨拶

・環境省内山自然保護官

パークボランティアの会は全国40ヶ所で自発的に活動している。その中で当会が一番多い人数で活気ある活動をしている。無理なく長く続けること、自分のペースでやっていくことが大切。環境行政では国立公園満喫プロジェクト、30by30(サーティ・バイ・サーティ、国土の30%以上を自然環境エリアとして保全)を進めている。今年瀬戸内海国立公園指定90周年にあたる。

・大高下 AR

今回會員の更新手続きを行う。宮島でのボランティアでやりたい事を立証する、フィールドに先ずは出て疑問を持つことが大事。大久野島のパンフレットを配布し紹介をする。

・末原会長

会員動静は7名退会9名入会で会員数は41名となる。
本年度設立24年を迎え10期の世代交代となっている。高齢化に対応をした活動で無事故無違反の活動を続けていきたい。

公募観察会では歴史学習を行うが、歴史や植物に関する後継者になってもらいたい。幹事会への行事推進員の出席、行事終了後の振り返りを行っていききたい。

どの部会の行事にも参加できるので積極的参加をお願いする。

3.総会の成立確認

出席者30名、委任状提出者8名、合計38名 全会員数41名の半数以上であり、総会成立を確認

4.議事（議長 末原会長）

次の5議案につき会長、各部会長、会計、監査から説明・報告があり、異議なく承認された。

議案第1号

- ・役員(副会長)の承認と観察部会長の紹介について

※副会長には河野会員、観察部会長には山本(昌)会員が就任し、各々就任挨拶をおこなった。

議案第2号

- ・令和5年度活動報告について

議案第3号

- ・令和5年度決算及び監査報告について

議案第4号

- ・令和6年度活動計画(案)について

議案第5号

- ・令和6年度予算(案)について

※環境省主催研修会の実施日程を再調整している。

その他、審議事項はなし。

5.当面の行事案内など連絡事項を行った後、総会終了

会員更新及び入会に伴う会員登録証の交付手続きのあと、会場玄関横にて集合写真を撮影する。

- 6.各部会に分かれ部会打ち合わせ行う。今年度の活動計画の具体化を中心に討議し、11時40分より12時15分に終了した。午後は昼食を挟んで、小なきり海岸植物調査及び清掃活動と入浜池補足調査の午後からの活動を行う。

(文：岩崎 写真：河野、麻生)



総会(1)



総会(2)



環境整備部会



観察部会



広報部会

新入会員の紹介

下記について答えていただきました。

- ① 現在住んでいる所、血液型
- ② 出身地、今までに長く住んだ所
- ③ PVに応募した動機
- ④ 他にボランティア活動していますか？
- ⑤ 趣味、特技など
- ⑥ 今までに登った一番高い山は？
- ⑦ 最近何か感動したことがありますか？
- ⑧ 最近憤慨していることがあれば
- ⑨ 好きな言葉
- ⑩ 他自己PRなどなんでも

会員 No1 青木 謙二郎 環境整備部会

- ① 大竹市 AB型
- ② 大竹市
- ③ 新聞の募集記事を読んで応募
- ④ 住居地区：朝の見守り活動（月～金）、登校時の交通安全指導他
- ⑤ 趣味：観葉植物、艦船雑誌等購読、広島交響楽団定期演奏会：年間会員他
- ⑥ 恐羅漢山（1346m）・・・大学3年時、ワンゲル同級生に誘われて。
- ⑦ NHK「新プロジェクトX」：東京スカイツリー建設PJの舞台裏
- ⑧ 特にありません。
- ⑨ 一隅を守り千里を照らす
- ⑩ 自分の体調管理に留意、有為に活動したいと思います。



会員 No4 伊藤 英美 観察部会

- ① 廿日市市新宮 B型
- ② 北海道釧路市
北海道札幌市
- ③ 宮島が好き
- ④ 北海道に住んでいた時に子供の自然体験活動のボランティア
北海道環境財団の地球温暖化ふせぎ隊のボランティア
- ⑤ 旅と音楽とお酒
- ⑥ 羊蹄山
- ⑦ 高安ヶ原、青海苔浦登山
- ⑧ 国道5号線の青信号がすぐ赤になる事
- ⑨ 真摯である事



会員 No11 折出 茂樹 環境整備部会

- ① 廿日市市阿品 A型
- ② 廿日市市
- ③ 宮島の自然と歴史に興味があり、ボランティア活動をしたいと思ひ応募
- ④ していません
- ⑤ 読書、映画鑑賞
- ⑥ 由布岳
- ⑦ 昨年初めて訪れたハワイ島の素晴らしい自然
- ⑧ 政治家の裏金問題や不適切な行動
- ⑨ なるようになる
- ⑩ 先輩方の足手まといにならないよう頑張ります

**会員 No13 熊埜御堂 愛子 環境整備部会**

- ① 広島市西区 O型
- ② 大分県宇佐市、広島市 37年
- ③ 公募会に参加して自分も仲間に加わりたいたいとおもいました。
- ④ 三井ボランティア、やまなみの会他、ゴミ拾い活動
- ⑤ ハイキング 料理
- ⑥ 由布岳 (九重山)
- ⑦ 素敵な人に沢山会えた事
- ⑧ 腹を立てない様にしています (平和公園のポイ捨てが多い)
- ⑨ おもいやり
- ⑩ 皆さんと楽しく笑顔で活動したいと思います。

**会員 No14 黒川 富秋 広報部会**

- ① 広島市東区 A型
- ② 三次市 (旧双三郡) 広島市
- ③ 自然保護、環境保護に少しでもかかわりたい
- ④ 縮景園ガイド、広島歴史探検隊 (郷土資料館など)
- ⑤ 語学 コーラス 能 特技なし
- ⑥ ポリビア ラパス中心街 (山ではないです) 高度 3640m
- ⑦ 孫娘がピアノ演奏する「カノン」を聞いたこと



- ⑧ 古くは 1979年3月29日米国スリーマイル島原子力発電所事故、最近は 2023年G7サミットの「広島ビジョン」
- ⑨ 自重互敬 地域主義 自治 金権より民権 雨ニモマケズ 不苦者有智 (ふくわうち)
- ⑩ なし

会員 No18 千日 由美子 広報部会

- ① 広島市中区 O型
 - ② 三原市、広島市中区
 - ③ 宮島が好きで、もっと宮島なことを知りたいと思ったから。
 - ④ こども食堂やイベントのスタッフ
 - ⑤ 読書、旅行、登山、サイクリング、ランニング
 - ⑥ 石鎚山
 - ⑦ ミスチルのライブチケットが当選したこと
 - ⑧ 円安で海外旅行ができないこと
 - ⑨ わたしの人生のボスはわたし
 - ⑩ 登山歴は長いのですが、宮島については初心者です。
- 広報担当になったので、私自身も学んで、しっかり広報活動をしていきたいです。

**会員 No21 豊原 清綱 観察部会**

- ① 廿日市市 A型
- ② 広島に住み始めて 23年になりました。
- ③ 植生調査や環境保全に貢献したいと思ってます。
- ④ 災害ボランティアに数回参加しました。
- ⑤ ジムトレ、家庭菜園
- ⑥ 富士山
- ⑦ お正月の飛行機事故で旅客機の全員が無事だったこと
- ⑧ 特にないです
- ⑨ 終には得られないかもしれないが、求めているなければ得られることはない。
勅使河原蒼風
- ⑩ 継続に意味があると思いますのでどうぞよろしくお願ひします。

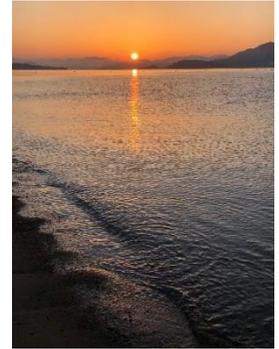


会員 No22 中丸 登代子 観察部会

- ① 廿日市市 A型
- ② 山口県錦町
- ③ 先輩会員さんに紹介されて。何か役に立てることがあればと思
- ④ 広島市観光ボランティアガイド
- ⑤ 山登り、花や野鳥の観察・写真を撮ること
- ⑥ 富士山・北岳他日本百名山 85 座
- ⑦ タゲリさま (野鳥) の美しい写真が撮れたこと
- ⑧ 自民党の裏金問題など
- ⑨ 人生楽あれば苦あり
- ⑩ 弥山には年に何回か登ります。登山道がきれいだと思っていましたが、こういう活動があるからだということがわかり、私もできるだけ参加したいと思いました。たくさん山には登っていますが、とてもスローです。よろしくお願いします



- ⑦ 青海苔浦で見た朝日の美しさ
- ⑧ 宮島の海岸のゴミの多さと包ヶ浦を取り巻く諸情勢
- ⑨ If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.(アフリカのことわざ)
- ⑩ PVの活動を通じて宮島についての見識をもっともっと深めていきたいと思いません。皆さんどうぞよろしくお願ひします。



入浜池定点観察②

入浜池維持管理作業②

日 時：2月17日(土) 9:30~12:15

場 所：入浜池

天候：晴れ(雲一つない快晴無風で、ひなたは暖かく絶好の観察日和でした。)

行事推進員：

・観察部会：大西 小川 小林(み) 穂井田 松田 元広 横路

・環境整備部会：上杉(幸) 恩田

参加者：上杉(裕) 上杉(幸) 大西 大林 小川 恩田 河野 小林(颯) 小林(み) 末原 兎谷 穂井田 村上(慎) 元広 山本(昌) 横路 吉賀 以上17名

新入会員研修生：5名

【維持管理作業】上杉幸江

当日は、空気は少しひんやりしていましたが、雲一つない快晴でした。

研修生の方も参加されたので、朝のミーティングでは、改めてこれまでの入浜池定点観察会の経緯と、2つの目的(台風で荒れた自然の復元とミヤジマトンボの生息への期待)について説明がありました。

一見すると海岸のゴミは少ないように思われましたが、カキ筏に使用していると思われる発泡スチロールの大きな塊・パイプの他

会員 No25 畑野 康 環境整備部会

- ① 広島市安佐南区中須 A型
- ② 広島市西区 広島市安佐南区
- ③ PVの皆さんが鷹ノ巣高砲台跡の整備清掃作業をされているのを知って。
- ④ 地元の武田山等での里山整備活動(NPO 法人里山環境保全みどり会) 広島市西区・安佐南区の市民ハイキング引率等(西区やまなみの会) 原爆献水の滝(西区「滝の観音」)での平和市民活動(献水の滝物語) 宮島の山道清掃(宮島の山道をきれいにする会)
- ⑤ 毎年4, 5月に徒歩での宮島海岸線一周(約32km)を行っています。 毎月6の付く日(6,16,26)に滝に打たれています。
- ⑥ 「家族の理解」という高い高い山に登はん中。山頂が全然見えてきません(涙)



に、食品のパッケージ、ガラスや陶器の破片なども散乱しており、結構危険だなと感じました。入浜池の水位は低く、水がない所もありましたが、泥に埋まったゴミを拾うことができました。

海岸清掃途中、優雅に飛んでいる鳥が見えたので、大西会員にお聞きすると、「ミサゴ」という名前で、尾羽の特徴や鳶との違いなどを説明して頂きました。

【水質調査】横路 晃

調査班：小林(勗) 横路

新人会員研修生 2 名

令和 5 年度の入浜池の定期調査②を実施しました。水位がかなり低下していて、B 点でも杭の位置で水位が標識杭まで達しておらず、杭の位置から 50cm の位置で水を採取しました。

測定結果は次の通りです。

平成6年2月17日(土) 測 定	満潮：14時24分 潮位：253cm			干潮：21時25分 潮位：76cm				
調査時刻	10:20		10:35			10:50	11:05	
測定地点	A	B	中央付近(2m)	C'	D	E	F	海水
杭、水位(cm)	-	-	-	-	-	-	-	-
水深 (cm)	2	1	10				2	
塩分濃度(%)	2.39	2.7	2.68				2	3.1
PH	7	7	7				6	7
COD	2	4	4				6	2
池水の状況	※水位が標準杭に達していない為、中央点で杭から2m、B点で50cmの地点で測定水を採取した。C'・D・E点では採取出来なかった。※(F地点)流/出入の水流なし			山水の流量(100のバケツが満水になる時間)				31秒

◇塩分濃度について

測定結果は塩分濃度が全測定点で高く、海水の塩分濃度に近い値となっています。

・海水の流入の可能性を潮位が 360cm 以上とすると、昨年 11 月以降の流入の機会は殆ど無かったと思われます。

・降水量が昨年 11 月以降も少なく真水の湧水が少なかった為、池の塩分濃度が前回の測定以降薄まらなかったと思われます。

◇PH について

全体にわたって 7 で中性となっています。

◇COD について

2～6 で汚れは少ないようです。

◇杭の水位について

全地点で水位が杭まで達していませんでした。B 点で杭まで達していなかったのは杭を設置以後初めてです。降水量が少なく、山水の流量も少なくなっています。

【野鳥観察】 元広 修爾

調査班：大西 穂井田 元広

新人会員研修生 1 名

入浜池周辺の林の中、やや開けた広場、海辺の 3 地点で調査を行いました。

冬鳥たちとの出会いが期待されていましたが、調査の前半で期待通りにシロハラに出会うことができました。シロハラは冬鳥として飛来し、やや暗い林床にいることが多い野鳥ですが、樹上から複数の特徴のある声が聞こえました。ただし、樹木が茂っているために姿は見え、撮影することはできませんでした。しかし、シロハラに出会えたことは本当に嬉しい出来事でした。なぜなら、科学的な裏付けはとれていないのですが、昨年と比較すると、今年は冬鳥の姿を見かけることがかなり少ないからです。

調査の後半では、エナガに出会うことができました。低木の茂みの中でチッチッと小さな声で鳴いているエナガの群れを見つけたのですが、すぐにその群れが近くの松の木に移動しました。その際に穂井田会員が撮影した写真を添付します。エナガは丸みを帯びた姿をしていて、とても可愛らしい野鳥です。特に北海道に分布する亜種のシマエナガはとても人気があります。



全体としては、下表のとおり 15 種の野鳥たちに出会うことができました。今年は冬鳥が少なかったのではないかと言う声が会員からも寄せられていますので、継続的な調査が必要であると考えられます。

(参照文献：『日本の野鳥 650』平凡社刊)

入浜 野鳥定点調査

2024年2月17日 曇り 10:00~11:30

種名	数	種名	数
ミサゴ	2	キジバト	1
トビ	5	ヒヨドリ	6
ハシボソガラス	1	メジロ	1
ハシブトガラス	2	ウグイス	2
ジョウビタキ	1	エナガ	5
シジュウカラ	2	シロハラ	5
カワラヒワ	1	ツグミ	1
コゲラ	1	計15種	

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥

季節区分は『ひろしま野鳥図鑑』（2002年）日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）による。

【植物観察】 山本 昌生

調査班：小川 山本(昌)

入浜池のヒトモトススキが昔に比べて衰退しています。その原因と対策を検討するための基礎調査を行っていますので、随時報告します。実生の周りにシカよけネット B を、移植した苗の周りにシカよけネット C を設置しました（写真 1）。

1. ネット B: 親株周りの実生の生育状況

前回調査の 11 月 4 日と比較すると成長が停滞する秋から冬のため、大きな変化はありませんでした（表 1、写真 2）。前回、シカが葉の先端を食害していましたので、その対策のため上部に園芸用ネットを設置しました。

2. ネット C: 新たに植えたヒトモトススキの生育状況

2023 年 11 月 4 日にヒトモトススキの苗を植えて、その周りにネット C を設置しました。計 6 株を植えましたが、そのうち 2 株 (B-1, C-1) の地上部がなくなっていました（表 2、写真 3）。完全に枯れたのか、地

下部が生存しているが寒さ等のために地上部が枯れたのか判明しません。今後の成長を観察します。

他の植物の状況

ヤブツバキの花とキミノシロダモの実を観察できました（写真 4）。

キミノシロダモは赤い実をつけるシロダモの実が黄色の個体です。珍しいようで、あまり図鑑でも取り上げられていませんが、広島大学大学院理学研究科附属宮島植物実験所（編）の「宮島の植物と自然」には取り上げられています。学名は *Neolistsea sericea* f. *xanthocarpa* とされ、*Neolistsea sericea* はシロダモの学名です。f. は forma の省略で、基本種のシロダモの実の色が黄色の品種 (forma) 扱いです。ちなみに *xanthocarpa* は「黄色の実」という意味です。

表 1. シカよけネット B 内の実生の生育調査結果

株No.	分けつ数*	最大葉身長 (cm)
1	1	11
2	7	47
3	2	32
4	15	56
5	1	20
6	2	28

株Noは集団の左の株から 1 番とした。

(2024.2.17)調査

*：親株を含む

株の最大葉身長平均 32.3cm

表 2. シカよけネット C 内に 2023 年 11 月 4 日に移植したヒトモトススキの株のデータ

栽培方法	株No.	分けつ数*	最大葉身長 (cm)
鉢で腰水なし	A-1	1	48
	A-2	3	40
鉢で腰水あり	B-1	0	—
	B-2	3	41
鉢なしでバケツ栽培	C-1	0	—
	C-2	3	35

2021 年 12 月 4 日に入浜池で採取したヒトモトススキの高芽を植物公園で栽培した。

*：親株を含む。苗の栽培方法を3種類とした。(2024.2.17 調査)



写真1. ネットB（実生苗）とネットC（移植苗）の位置



写真2. ネットB内の苗の生育状況
(撮影 2024.2.17)



写真3. ネットC内の苗の生育状況、B-1とC-1の地上部が見えない。
(撮影 2024.2.17)



写真4. キミノシロダモの実
(撮影 2024.2.17)

宮島学園卒業記念植樹

日時：3月12日(火) 9:00～15:00

天候：晴れ

場所：獅子岩駅辺りの斜面

参加者：大林 河野 末原 増田 森 呼坂
以上6名

宮島学園卒業記念植樹は、広島森林管理署体験植樹事業の一環として、宮島学園卒業生（9年生：中学3年生）による、宮島ロープウエー獅子岩駅周辺の植生を復元させるための植樹で、今回は8回目となります。

広島大学宮島自然植物実験所坪田准教授のご指導により、宮島学園の生徒が宮島で採った樹木の種を蒔き、育てた苗木を卒業生が植樹するものです。

参加者は、宮島学園卒業生11名、宮島学園林校長先生をはじめ先生4名、広島森林管理署1名、廿日市市教育委員会生涯学習課1名、広島大学宮島自然植物実験所坪田先生をはじめ職員・学生の10名、広島工業大学学生5名、香川大学1名、宮島弥山を守る会5名、サクラオBD2名、あなご飯うえの1名、中国新聞記者1名、当会員6名の47名でした。

当会員は9時に宮島栈橋に集合し、徒歩で宮島ロープウエー紅葉谷駅に移動し、他の参加者と合流しました。参加者全員が1本ずつ

苗木を持ってロープウエーに乗り、9時50分ごろ獅子岩駅に到着しました。

獅子岩駅前での開会式で林校長先生の挨拶があり、次に、坪田先生から植樹位置、その場所に適した苗の種類指定があり、苗木を植えるため掘った穴が文化財保護法許可範囲内(直径30cm、深さ30cm)になっているかを廿日市生涯学習課職員の方に確認してもらった後、腐葉土を混ぜ苗木を植え鹿除け防護柵を設置し最後に水を撒きました。

穴掘り、植樹及び防護柵の設置は主に生徒が行い、当会会員など他の参加者は苗木や物資の運搬、植樹作業の補助を行いました。

作業は午前中2時間、昼食後1時間要しました。13時50分からの閉会式で林校長先生から謝辞があり作業は終了し、ロープウエーで下山し、栈橋に15時ごろ到着しました。

なお、植樹した苗木は、例年の25~30本より多く、アラカシ8本、アカガシ7本、ウラジロガシ2本、ウリハダカエデ5本、エノキ2本、クスノキ1本、コジイ1本、シロダモ2本、ツクバネガシ2本、トキワガキ1本、ヒメユズリハ1本、ヤブツバキ1本、ヤブニッケイ1本、ヤマモガシ2本の14種、40本でした。

この日はおおむね晴れでしたが、一時みぞれが降るなど天候は不安定でした。気温は10℃前後で少し寒い天候でしたが、作業には支障はありませんでした。

なお、下山途中にロープウエーから見た、無数の赤い果実で、木全体に深紅の花が咲いたように見えるタマミズキは大変鮮やかで、疲れを忘れるほどでした。

(文, 写真: 河野 集合写真: 広大 内田様)



開会式(林校長先生、坪田先生挨拶)



植樹(穴掘り)



植樹(苗木植え付け)



植樹苗木 40本(獅子岩駅)



みぞれが降る中の支柱打ち込み



ロープウエーとタマミズキ



植樹後の状態



深紅の花が咲いたようなタマミズキ



集合写真（獅子岩駅）

鷹ノ巣高砲台跡地清掃・ 整備作業

日時：3月16日(土) 9:00～

場所：鷹ノ巣高砲台跡地

天候：晴れ

行事推進員：上杉(裕) 上杉(幸)

参加者：岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 小川 河野

小林(勗) 末原 兎谷 穂井田 増田

舛田 村上(慎) 森 山本(昌)

以上 14 名

新入会員研修生：7名

春の訪れが近いようで、朝の移動時には必要だったセーターや上着が作業を開始するころには不要になり、体を動かすと少し汗ばむ程でした。

集合場所からタクシー他で鷹ノ巣分岐まで移動し、ミーティングの後徒歩で現場まで移動し作業を開始しました。マダニには厳重注意です。

作業はまず、連隊長指令室跡、方位観測所跡の清掃と、高砲台跡までの連絡通路の清掃にグループ分けして実施しました。積もった落ち葉を掃き集めてブルーシートで包んで斜面に捨てる作業、土を掘り崩れた段差を復元する作業を行いました。

それぞれ綺麗になったところで、末原会長手作りのニッケ団子をいただきながら休憩をとりました。

作業を再開し、高砲台跡の清掃を行いました。落ち葉を掃き、弾薬庫跡などの石垣の上部から垂れ下がっている蔓草を切り取りました。

作業開始前と昼食後、増田会員より、鷹ノ巣砲台についてご説明いただきました。この施設は明治33年に陸軍が軍事拠点であった広島・呉に侵攻しようとする外国艦隊迎撃のために築いた広島湾要塞の1つでした。高地に榴弾砲を設置した高砲台、沿岸に加濃砲を並べた中砲台、低砲台で構成されていたそうです。大正15年に廃止されるまで戦闘は行われませんでした。

また、鷹ノ巣砲台には当時貴重だった輸入レンガなど、非常に質の良い資材が使われており、当時の軍部がいかにこの施設を重要視していたかがわかります。

ここを訪れる人は滅多にいないようで、年に一回の当会による清掃作業は遺構の保存に少なからず寄与しているとの認識を新たにしました。

(文：上杉(裕) 写真：河野)



方位観測所跡 (増田会員による説明)



清掃 (方位観測所)



通路整備 (連隊長指令室跡)



清掃後（連隊長指令室跡）



清掃（方位観測所への通路）



清掃後（方位観測所への階段）



清掃（高砲台跡）



集合写真（高砲台跡）

・自主観察会(1)小なき

り海岸植物調査

・小なきり海岸清掃作業

【自主観察会(1)小なきり海岸植物調査】

舛田 裕子

日時：4月6日(土) 13:30~14:30

場所：小なきり海岸

天候：晴れ

行事推進員：舛田 猪谷 山本(加)

参加者：岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 折出 恩田

河野 末原 種本 兎谷 長村 舛田

村上(慎) 森 山本(加) 以上 14 名

環境省：内山自然保護官 大高下 AR

例年行っている小なきり浜の植物観察を3名で行いました。以前作成した植物マップをもとに浜の西側の樹木を調査。アセビ、ザイフリボク、コバノミツバツツジ、ヤブツバキは今年も花が咲いていました。

湿地のハンゲショウはたくさん芽をだしています。

七十二候の「半夏生」※の頃が開花時期です。頂きの緑の葉の一部が白く変化して、半分化粧をしたように見えます。その葉の付け根から白い穂状の花をつけます。ドクダミ科なのでシカが嫌うのでしょうか、小なきりでは大群生を見ることができます。7月の初めが楽しみですね。小なきり浜の目玉植物です。是非観察してみてください。

※一年で一番、日が高い「夏至」(2024年は6月21日)から数えて11日目

小なきり浜の植物



【ハマゴウ(クマツトク科)浜栲】
別名：ハマハ(浜這)
海岸の砂地に生える落葉小低木
花期：7~9月
枝葉はよい香りがする
線香や灰汁は染料に、果実は「蔓荊子」と呼ばれる生薬に



【ハンゲショウ(ドクダミ科)半夏生または半化粧】
別名：放つサ(片白草)
水辺や湿地に生える多年草
花期：6月~8月
全体に臭気がある
茎の先端の葉数枚が、表側一部分だけ白く変わる



【小なきり海岸清掃作業】 山本加奈子

総会終了後、満開の桜の下を歩き小なきり海岸に移動し、清掃を行いました。流木、缶、ペットボトル、牡蠣パイプ、発泡スチロールなどゴミ袋10袋分のゴミを回収しました。

小なきり海岸近くの湿地にハンゲショウが芽であり、白い葉っぱと花を見るのが楽しみになりました。



植物調査班



海岸清掃①



海岸清掃②



集合写真

入浜池補足調査①

日時：4月6日（土）13:30～15:30

場所：入浜池

天候：晴れ

行事推進員：大西 小川 穂井田 松田

元広 横路

参加者：麻生 大西 大林 小川 熊埜御堂

黒川 中丸 穂井田 松田 元広

山本(昌) 以上 11名

総会の後、午後から補足調査を行いました。観察部会以外の人や新会員の参加もあり、昔と違ってヒトモトススキが大きく減った現状を見てもらいました。それぞれの班に分かれて調査活動を行いました。また、松田会員による入浜池の調査活動（昆虫類）の目的と方法について説明がありました。

(山本(昌))



【水質調査】小川

調査班：麻生 小川 黒川

調査結果は表1のとおり。山側のあちこちから水が流入しており、すべての測定地点で採水できた。F地点では、堰から池の水が越流していた。塩分は、山水が流れ込むC、C'、Dの各地点では0%、それ以外の地点では0.01～0.04%であった。

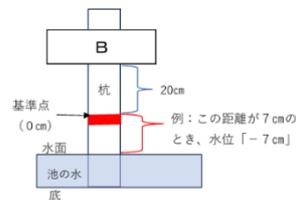
次ページの図2の衛星写真の黒い土の部分は水分が多く、シカの足跡が少なかった。

令和6年4月6日(土) 曇		満潮 8:09 (潮位333cm)			干潮 14:18 (潮位77cm)						
調査時刻	13:30	15:15	13:50	14:00	14:05	14:15	14:22	14:28	14:38	14:50	15:00
測定地点	A	B	臨時	C	中央	C'	D	E	F	海水	山水
杭 水位 (cm)	-6	-7	杭なし	杭なし	-13.5	水なし	杭なし	-11.7	-9	杭なし	杭なし
水温(℃)	20	20.5	18	19	21	(17)	16	20	21	14	13
水深(cm)	10	17.5	7	3.5	5	0	6	5.5	10	8	—
塩分(%)	0.04	0.01	0.01	0	0.04	(0)	0	0.02	0.04	1.74	0
pH	5	5	5.5	5	5	7	(6)	6	6	4.5	7
COD	8以上	4	4	4	8以上	(1)	3	4	4	—	1
備考			※1	山水あり		※2			※3		※4

※1 今回のみの測定。水の動きが認められないところで採水した。北側50cmのところは山水が流れ込んでいた。
 ※2 C'に水がないため、東隣を流れる山水を測定し、()内に記した。杭の根元には荒い砂が堆積し、水がない。
 ※3 池の水は堰をオーバーフロー。堰の池側では発泡スチロールの粒、枯れた松葉などが浮いた状態で集積。
 ※4 山水は広範囲かつ大量のため、10リットル満杯時間が測定できなかった。山水と池の流出水は海に流出せず水たまりとなり、波打ち際までの水路は浜の西寄りであったが、干上がっていた。干潮の影響もあると思われる。

表 1

「杭 水位」と測定地点の標識



ここ2年余りのB地点の塩分・水位と降水量をグラフにしてみた(表2)。降水量は気象庁が公開している大竹市のデータを引用した。B地点は、他の測定地点と比べて水深があり、海水が流入する水路から離れており、山水が流入しない場所だ。H25～R1年の調査では、塩分が2%を超えたことがない。しかし、表2では10回の調査のうち5回で2%を超え、以前より塩分が高い傾向にある。

当会にある18年に及ぶ入浜の記録をグラフにし、水路整備内容、潮汐や海水の流入、池の外観など時々々の状況を併せて考えると、いろんなことが見えてきそうだ。(興味のある方はぜひ活動に参加してください。)

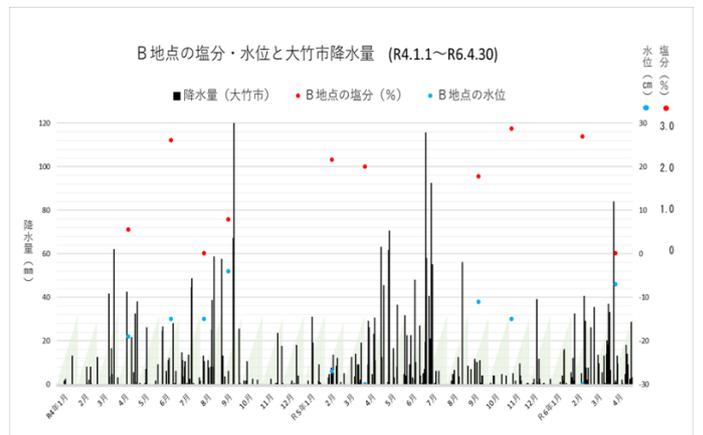


表 2

◇調査活動の感想

A地点がぬかるみのため、長靴姿の私が採水し、麻生会員と黒川会員が記録とCODパックテスト等の判定をすることになった。私が水質調査に加わるのは久しぶりで、長年愛用のカメラをうっかり水没させてしまったり、採水ポイントを間違えたり（そのため測定地点が増えた）とアクシデント続出であったが、その都度お二人に助けていただいた。

（ありがとうございました。これからも入浜に興味のある会員には水質調査への参加、協力をいただきたいと強く思いました。）

◇入浜の変遷の考察

(小川)

図1は、2008年の航空写真（国土地理院）にGPSを利用し水質測定地点を表示、図2は、2024年のgoogle衛星写真に今年4月の測定地点を（調査時の写真をもとに）表示している。



図1 2008年6月撮影（国土地理院）2011年作成



図2 2024年衛星写真（google）2024年4月作成

撮影時期は、図1が水を満面に湛えた新緑の頃、図2が冬場の渇水期である。よくみると、図1の水面を囲むヒトモトススキの草色の部分と、図2の矢印の先端の黒土の部分の形状はほぼ同じだ。このことから、図2の黒土の部分には、かつてヒトモトススキが繁茂していたことがわかる。黒土から池の中心に向かって点々とあるのはヒトモトススキの古株（谷地坊主）だが、今年も葉を茂らせそうもない。

図2の池周囲の真砂土色の部分は豪雨の際、周囲から土砂が流入したと思われる。

昨年から今年にかけて、池の水が減少し黒土の部分の部分が乾くと、シカが黒土を前肢で浅く掘り起こした痕跡が広く認められた。今年2月の調査ではシカが黒土に口をつけているのを見た（写真参照）。もしかするとこの黒土部分は、少雨の時期は海水の流入・乾燥を繰り返して塩田のようになり、シカのミネラル供給源となっているのではないかと想像してみたりする。



2024. 2. 17 左方向を警戒中のシカの群れ。シカは直前までヒトモトススキの株や黒土に口をつけていた。10頭（赤矢印）いるが、真っ先に藪に逃げた数頭は写っていない。

【植物観察】山本昌生

調査班：大林 熊埜御堂 中丸 山本(昌)

◇ヒトモトススキ調査

1. ネットB：親株周りの実生の生育状況

2月17日にネットの上部に設置した園芸用ネットは、なくなっていました。詳細は不明ですが、シカが取り除いたのかもしれませんが。また、ネットがずれていて、育っていたヒトモトススキにぴったりとくっついていました。そしてネットからはみ出していたと思

われるヒトモトススキがなくなり株数が少なくなっていました(写真5)。株数は6株から1株に減少し、分けつ数は15、最大葉身長は45cmだったので、表1の株No4だけが生き残ったと思われます。シカが強い力でネットをずらし、食害したのでしょう。ずらされたネットは元の位置に戻し、新たに倒木の杭で補強しました(写真6)。

2. ネットC：新たに植えたヒトモトススキの生育状況

シカによる被害はなく、中のヒトモトススキの状態も前回の2月17日と変化はありませんでした。春先なので、まだ新しい葉が出ていませんでした。

◇他の植物の調査：開花していた植物はヤブツバキ、イヌガシ、シキミ、ヤマモモ♂、ヒサカキ、シハイスミレ、ナガバタチツボスミレでした。



写真5. 2月17日の写真2(P9)と比較して株数が減少したヒトモトススキ



写真6. ずれていたネットを元通りに修正した。

【野鳥観察】 元広 修爾

調査班：大西 穂井田 元広

入浜池周辺の林の中、やや開けた広場、海辺の3地点で調査を行いました。

入浜池では、アオサギが見られました。林の中では、コゲラのドラミングや、シロハラ、シジュウカラの声が聞こえました。また、入浜池上空を飛んでいくカルガモに出会いました。

本日の嬉しい出会いは、カワラヒワでした。入浜池のそばの枯れ枝の先に留まって、盛んに鳴いていました。(撮影写真添付)

松田会員からは、アオバトを見たという情報提供と、本調査の終了後に小なきり海岸に立ち寄られマミチャジナイに出会ったと報告もありました。(写真添付)

皆様、お疲れ様でした。

入浜 野鳥定点調査

2024年4月6日 晴れ 13:30~15:00

種名	数	種名	数
ミサゴ	4	アオサギ	1
トビ	4	ヤマガラ	3
ハシボソガラス	2	シジュウカラ	6
ハシブトガラス	1	ウグイス	5
ツグミ	1	メジロ	3
アオゲラ	1	ツバメ	1
セグロカモメ	2	シロハラ	1
カワラヒワ	5	ヒヨドリ	50
コゲラ	5	カルガモ	2
アオバト	7	キジバト	1
マミチャジナイ	10	カワウ	1
		計22種	

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

季節区分は『ひろしま野鳥図鑑』(2002年)日本野鳥の会広島県支部(編)中国新聞社刊)による

清掃登山（多々良～高安ヶ原～青海苔）



カワラヒロ
(2024.4.6 入浜池 穂井田会員撮影)

日時：4月20日（土）8:30～15:25
 天候：くもり後雨
 行事推進委員：村上（慎）吉賀
 参加者：青木 伊藤 岩崎 折出 熊埜御堂
 河野 末原 千日 中丸 畑野 穂井田
 増田 松田 三戸 村上(慎) 森
 山本(昌) 吉賀 以上 18名
 (環境省) 山脇保護官 内山保護官

今回の清掃登山は、棧橋～多々良～高安ヶ原～青海苔～塩屋漁港～JR 大野浦駅を巡るコースで実施しました。

当日は夕方から雨の予報で実施が心配されましたが、曇天の中、宮島棧橋前広場に午前8時半に集合し、大元公園を經由し多々良に向かいました。

ほぼ予定通り9時43分に多々良林道入口を通過し、休憩をとりながら三ツ丸子分岐に10時48分に到着しました。途中の林道分岐から山道となり、のぼりが続いたためやや列が長くなることもありましたが、予定よりも早く11時16分には昼食場所の青海苔分岐に到着しました。やや開けた場所で昼食をとりました。この際には晴れ間もみえ、新緑の中、心地よい時間を過ごすことができました。

30分程度の昼食休憩の後に青海苔分岐を出発し、12時に高安ヶ原（陶晴賢敗死之碑）に到着しました。この場所において、増田会員から巖島合戦、陶晴賢についての話を聞きました。ここから青海苔浦までの下りは、落ち葉等で滑りそうな場所もありましたが、列が長くなることもあまりなくゆっくりと降りていきました。

13時20分に青海苔浦に到着。船が迎えに来るまでの間、青海苔浦神社に参拝したり、増田会員から七浦神社の話を聞いたり、海岸の風を受けながらゆったりとした時間を過ごしました。

予定通り14時30分頃に2隻の船に分かれて乗り塩屋漁港までの約40分間、普段見ることのできない宮島裏の海岸線を見ながら



カルガモ
(2024.4.6 入浜池 穂井田会員撮影)



マミチャジナイ
(2024.4.6 小なきり海岸 松田会員撮影)

の船旅を楽しみました。塩屋漁港に到着後に徒歩で JR 大野浦駅に向かい、15 時 25 分に駅で解散しました。

漁港から JR 大野浦駅までは少し雨に降られましたが、それまでは曇天の涼しい気候の中、個人ではなかなか行くことのできない貴重な体験をさせていただきました。このコースを企画し下見や清掃等を行っていただいた方々、船で迎えに来ていただいた方々に感謝いたします。ありがとうございました。

皆さんお疲れ様でした。

(文 : 吉賀 写真 : 河野)



11:11 崖を登ります



10:47 張ったロープをつかみ山道を登ります



11:24 昼食 (青海苔分岐の尾根)



12:14 集合写真 (陶晴賢碑前)



12:06 陶晴賢碑 (増田会員による説明)



12:32 川を渡る



13:06 水道取水口 (末原会長説明)



14:33 塩屋漁港に向かう



13:57 集合写真 (青海苔浦神社)

***** 投 稿 *****

「 要害山の藤の花 」 森 弘

5月3日に撮影。棧橋広場西端から要害山の登り終わりの辺りの白い藤の花。まだ、蕾が少し残り 満開とは行きませんでした、たくさん綺麗に咲いていました。逆光であったためか、白の花が際立っておりませんが、素晴らしいものでした。



◇ 編 集 後 記 ◇

96号も皆さんの協力で予定通りに発信できました。感謝！ 一方で我が身は老化が進み、パソコン作業は老眼鏡が必需品になりました。

新人会員2名が広報部会に入会！！ 楽しく広報活動に参加していただけるようにしたいと思っています。

(麻生)

**瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会**

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455